

“いじる”という名の凶器

“いじる”という言葉の意味をご存知ですか？ 人によっていろんな解釈の仕方があるかもしれません。

本来の意味は“いじめる（相手を小馬鹿にしている気持ちが込められている）”ということです。

子供たちも“いじめ”は良くないのは理解している子が多いと思います。

しかし“いじる”という言葉になると罪悪感が薄れるのか、平気でチームメイトや友達を“いじる”子がいるようです。

一番問題なのは、監督やコーチなど子供を指導・監督しなくてはならない大人側が、「いじる」という名の元に子供の身体的特徴や言動を取り上げ、面白おかしく揚げ足をとることや“あだ名”をつけることです。

大人、しかもその場で権力の強いコーチがそのような事をすると、どのような現象が起こるかわかりますか？

正解は・・・ **子供たちが真似をする** のです

子供は全て身近な大人の真似をして育ちます。

『好ましい行為』も『好ましくない行為』もです。

大人が意識していない所で、子供にこのような好ましくない“教育”がなされているのです。

息をするようにごく自然に。

子供がなんの影響も受けずに好ましくない行為はしません。

もし好ましくない行為をする子がいるのであれば、それは全て身近な大人の真似です。

もしくは身近な 大人がその行為を好ましくない行為だと教えてないことが問題なのです。

大人がきちんと理解できるように教えれば子供はやらなくなります。

もし「教えているのに子供が言うことを聞かない」というのであれば、子供に理解できるようにきちんと説明できていない大人側の

問題でしょう。

本来『いじる(いじめ)』のような好ましくない行為を子供がした時に、正しい方向へ導かないといけないのが「大人」のはずですが、見本とならなければならない大人が、人として好ましくない最低な行為を行っているのだから困ります。

山口県の男子高校生が自らの命を絶った痛ましい事件が報道されています。

その原因の一つに「教員によるいじめに類する行為」があったとあります。

大人がやっているんだから大丈夫だろうと、子供たちが真似をした最たる例であります。

本人に悪いことをしている自覚はもちろんでしょし、これで子供にどのような影響がいくかなど全く考えもせず行っている愚かな人なのでしょう。

このようなスクールや、チームが実際にあるようなので残念でなりません。

一番上に立つものが勝手なカースト（差別的階級）を作り、自分の権力を誇示するために“弱者をいじり、権力を示す”のです。

『愚かで幼稚な大人がいるものだ』と話を聞いた時に心が痛くなりました。

同様の件は多数報告されています。

そして監督やコーチだからと言っても偉いわけでは決して特別ではありません。

もし偉そうにダメ出しだけをして「ああしろ！」「こう動け！」と自分の考えだけを押し付け、命令ばかりするのであれば、その人はコーチでもなんでもなくただの嫌な人なのです。

いじる行為が平気で行われているスクールやチームでは、子供たちの価値観は歪み、“いじる”行為は正当化され、いじられる側は嫌でも受け入れざるを得ない状況になります。

いじられる側は嫌な思いをしても、子どもも親も泣き寝入りする状況になります。

果たしてこんな環境で好ましい“選手”いや、“人間”は育つのでしょうか？

想像するに彼らは、いじる（いじめ）環境が当たり前のように過ごすので、どこにいてもその大人がしたことと同じようなことをする

子になってしまいます。

もちろん、保護者の方の教えで決してそのような愚かな行為は真似しない子もいます。

お子さんが流されやすいかそうでないかは、最終的にご家庭の考えに大きく影響をされるのかもしれませんが。

子供のせいにはせず、まず大人がしっかり見本を見せなければ、子供たちは正しい人としてのあり方を理解できません。

このような愚かな大人を増やさないために、一人でも減らすために今一度大人がきちんと子供に向き合い道しるべとなるよう

に、これからもスクール生一人一人に接していこうと思います。

“サッカーが上手い選手”だけではなく、目指すべきは“人として好ましく、その上サッカーの上手い選手”です。

一番のベースは“人として好ましい”ということです。